

平成21年度文部科学省

「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」選定取組

在宅医療と福祉に重点化した 薬学と看護学の統合教育と チーム医療総合職養成の拠点形成



ごあいさつ



取組代表者
片峰 茂 (長崎大学 学長)

超高齢社会を迎えたわが国においては、持続可能な社会保障と医療体制の構築が喫緊の課題となっています。その観点からも、在宅医療のニーズが今後益々高まることが予測され、地域におけるチーム医療体制の整備が不可欠と考えられます。特に長崎県は、病院・診療所の数や病床数が全国で最も多い県の一つであることから、在宅医療の普及が課題となっており、在宅医療を支える専門人材の育成や環境の整備を推進する必要性が高い地域の一つです。

このたび、文部科学省の支援の下、長崎県内で薬剤師と看護職の養成課程を持つ国公立の3大学(長崎大学、長崎県立大学および長崎国際大学)が共同して「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」事業をスタートいたしました。本事業は、地域の複数大学が連携・協同して地域と一体となった人材養成を目指すプログラム「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム(戦略GP)」の一環として行われます。3大学が、長崎県、長崎県薬剤師会、長崎県病院薬剤師会、長崎県看護協会および長崎県医師会と連携し「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム」を組織して、医療現場で患者が必要としている様々なケアに対応できる臨床能力のオンデマンド型総合実践力を身につけた次世代のチーム医療総合職としての薬剤師と看護職の育成を目指すものです。多くの方々の、ご理解、ご支援を賜れば幸いです。

大学間連携の目的

連携する大学・学部のカリキュラムや教育者資源の利点を活かした取組を展開することにより、在宅医療や福祉に重点化した薬学と看護学の実践型統合教育システムを構築する。



連携取組の内容・1

大学教育(薬学生・看護学生)

- 薬学・看護学・福祉学・栄養学の教育を行う。
- 在宅医療・福祉の合同実習を行う。

薬物療法と看護の知力に長けたチーム医療総合職としての薬剤師と看護職を養成する。

生涯学習(薬剤師・看護職)

- 看護の知力に長けた薬剤師へと再教育する。
- 薬物療法の知力に長けた看護職へと再教育する。

薬学と看護学の最新の知力を共有するチーム医療総合職へと再教育する。

連携取組の内容・2

提携大学のカリキュラムの利点を活かした授業科目を3大学で計画し、低学年次専門科目の共同授業として実施する。NICEキャンパス長崎の履修科目とする。

従来、個別に行ってきた薬剤師向けと看護職向けの卒業生涯学習の場を薬学と看護学が共に学べる統合プログラムへと再編し実施する。

3大学間の教育職員の人的交流、大学施設の共同利用の推進、また自治体や関係職能団体との共同事業の推進などを連携して実施する。

期待される効果

1

多様なニーズを抱えた患者のケアに参画できる薬剤師と看護職が養成され、長崎県全域の保健医療福祉分野を支える人材育成に繋がる。

2

在宅支援の場面で患者が必要としている薬物療法・看護・介護・栄養等のケアを患者が切れ目のない医療サービスとして享受できるケア環境の整備に繋がる。

3

医療担当者(とくに医師)の負担軽減と医療リスクの低下に結びつき、長崎県全域の医療環境の強化に貢献できる。

大学教育

平成22年度は、3大学の連携学科学生を対象として、連携する大学のカリキュラムや教育者資源の利点を活かした授業科目(薬学・看護学・福祉学・栄養学の領域)を計画し共同授業として実施、3大学の様々な専門領域の教育職員、本事業の専任教育職員、学外の専門家が講師を務めた。また、3大学の連携学科合同による早期体験学習として、低学年次(1~3年次)の希望者を対象に大学混成グループを編成し、訪問看護ステーション・薬局・在宅療養支援診療所への見学および在宅訪問を行った。

平成23年度以降は、長崎県主催「NICEキャンパス長崎」(大学間単位互換制度)へ科目登録し単位化することにより、3大学の連携学科学生のみならず長崎県内にある他大学の学生も履修対象となる。

◎平成22年度

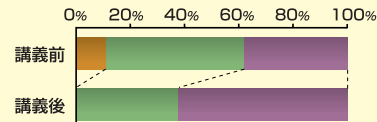
共同授業「在宅ケア概論」

- 第1回 オリエンテーション・在宅医療概論
●10月9日(土) ●手嶋 無限(薬剤師)
- 第2回 在宅療養と緩和ケア
●10月9日(土) ●中尾 勘一郎(医師)
- 第3回 医療従事者に知ってほしい在宅医療のための薬の知識
●10月16日(土) ●大磯 茂(薬剤師)
- 第4回 在宅医療の実際と問題点(在宅医療・福祉総論)
●10月23日(土) ●山本 主税(社会福祉士)
- 第5回 在宅医療と栄養
●11月6日(土) ●牧山 嘉見(管理栄養士)
- 第6回 薬剤師にとっての在宅医療
●11月20日(土) ●中野 正治(薬剤師)
- 第7回 在宅医療における管理栄養士の役割
●11月27日(土) ●牧山 嘉見(管理栄養士)
- 第8回 在宅医療における医師の役割
●11月27日(土) ●出口 雅浩(医師)
- 第9回 在宅医療の実際と問題点(多職種連携と在宅医療に必要な知識)
●12月4日(土) ●新川 哲子(看護師)
- 第10回 在宅医療における薬剤師の役割
●12月18日(土) ●中野 正治(薬剤師)
- 第11回 在宅医療における歯科医師の役割
●12月18日(土) ●角町 正勝(歯科医師)
- 第12回 在宅医療における看護師の役割
●1月22日(土) ●大町 いづみ(看護師)
- 第13回 在宅医療における介護支援専門員の役割
●1月22日(土) ●大町 いづみ(介護支援専門員)
- 第14回 在宅における認知症高齢者
●1月29日(土) ●赤司 千波(看護師)
- 第15回 在宅医療における家族の役割
●1月29日(土) ●池本 ミチエ
- 第16回 在宅医療と行政
●2月19日(土) ●内田 享子(保健師)
- 第17回 在宅医療における高齢者医療
●2月26日(土) ●松坂 誠恵(医師)
- 第18回 模擬カンファレンス
●2月26日(土) ●長崎薬学・看護学連合コンソーシアム所属教員

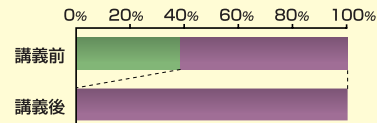
【第10回講義アンケート結果】

■必要 ■やや必要 ■やや不必要 ■不必要

薬学と看護学の統合教育は必要と思いますか?



多職種連携による在宅療養支援は必要と思いますか?



早期体験学習 8月11日(水)・24日(水)・25日(水) 参加総数61名(学生39名、職員22名)



オリエンテーション①



オリエンテーション②



施設・在宅訪問

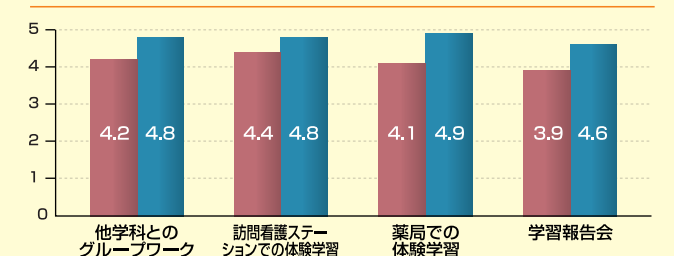


学習報告会



参加学生

【早期体験学習アンケート結果】



平成23年度以降

『NICEキャンパス長崎』(大学間単位互換制度)への科目登録による単位化

▶対象学生の拡大(連携 3大学6学科⇒長崎県内 8大学16学科)

●コーディネート科目(新たに開講するオムニバス形式の講義や集中講義(合宿型実習含む))

開設校	科目名	備考
長崎大学	「在宅療養支援における多職種連携を考える」	一般の聴講可、遠隔授業対応
長崎大学	「在宅療養支援の実際を知り多職種連携を考える」	1泊2日合宿型(早期体験学習)

●専門科目・教養科目(各大学で既に開講している通常科目)

開設校	科目名	備考
長崎大学	「薬物治療実践学」	専門科目
長崎県立大学	「在宅看護論」	専門科目
長崎国際大学	「在宅医療概論」	教養科目

その他の大学教育

・高学年次実習(2泊3日合宿型)

病院内の緩和ケアチーム、地域医療連携センターおよび在宅療養支援診療所における在宅緩和ケアを中心に、地域での在宅支援を学ぶ。

生涯学習

平成22年度は、社会人である現役薬剤師・看護職をはじめとする医療従事者を対象として、在宅医療における薬学的ケア・看護ケア・介護ケア・栄養ケア等をテーマとした教育セミナー、研修会、シンポジウムを開催した。これは患者が必要としている様々な在宅ケアに対応できる臨床能力のオンデマンド型総合実践力を身につけた医療総合職の養成を目的としている。また、在宅医療と福祉に重点化した専門人材の養成と地域医療への貢献を目指す本事業活動を地域住民に広く認知してもらうため市民フォーラム、日韓合同フォーラムを開催した。

平成23年度以降も、3大学の様々な専門領域の教育職員や学外の専門家を招き、充実したプログラムを開催していく。

◎平成22年度

教育セミナー

- 第1回 在宅医療に関する問題提起
●6月29日(火) ●大町 いづみ(看護師)
- 第2回 栄養支援
●10月7日(木) ●牧山 嘉見(管理栄養士)
- 第3回 栄養支援(嚥下・口腔ケア)
●10月28日(木) ●猪野 恵美(歯科衛生士)

研修会

- 第1回 フィジカルアセスメントⅠ
●11月11日(木) ●手嶋 無限(薬剤師) ●永峯 卓哉(看護師) ●中尾 勘一郎(医師)
- 第2回 フィジカルアセスメントⅡ
●11月25日(木) ●手嶋 無限(薬剤師) ●永峯 卓哉(看護師) ●中尾 勘一郎(医師)
- 第3回 フィジカルアセスメントⅢ
●1月20日(木) ●手嶋 無限(薬剤師) ●永峯 卓哉(看護師) ●田代 隆良(医師)

シンポジウム

- 第1回 ●9月12日(日)
多職種連携と在宅支援に必要な知識
●松坂 誠應(医師)
在宅療養支援の現場に必要な保険制度・法律の知識
●萩田 均司(薬剤師・介護支援専門員)
- 第2回 ●12月19日(日)
在宅支援における訪問診療の実際
●白髭 豊(医師)
在宅支援における訪問看護の実際
●下屋敷 元子(看護師・介護支援専門員)
在宅支援における薬剤管理指導の実際
●佐田 悦子(薬剤師)

【第1回研修会アンケート結果】

今回の内容はいかがでしたか？

満足…67% やや満足…33%

新しい知識を得ることができましたか？

大いに参考になった…75% やや参考になった…25%



【第2回シンポジウムアンケート結果】

薬学と看護学の統合教育は必要と思いますか？

必要…84% やや必要…16%

多職種連携による在宅療養支援は必要と思いますか？

必要…99% やや必要…1%



【市民フォーラムアンケート結果】

薬学と看護学の統合教育は必要と思いますか？

必要…89% やや必要…11%

多職種連携による在宅療養支援は必要と思いますか？

必要…96% やや必要…3%



市民フォーラム

●2月6日(日)

長崎薬学・看護学連合コンソーシアムの取組への期待

●丸山 徹(薬剤師)

多職種連携と在宅支援に関する話題提供

～薬剤師の立場から～

●吉岡 ゆうこ(薬剤師)

地域生活につなげるための多職種チーム医療のすすめ

～今!長崎に求められる地域医療のあり方～

●栗原 正紀(医師)

日韓合同フォーラム

よりよい在宅医療を目指して

●2月13日(日) ●手嶋 無限(薬剤師) ●越智 幸代(看護師) ●李 賢珠(看護師) ●沈 熙淑(看護師)

平成23年度以降

より地域に根差した取組を目指し、シンポジウム・研修会・フォーラムをそれぞれ県南(長崎市)・県北(佐世保市)で開催

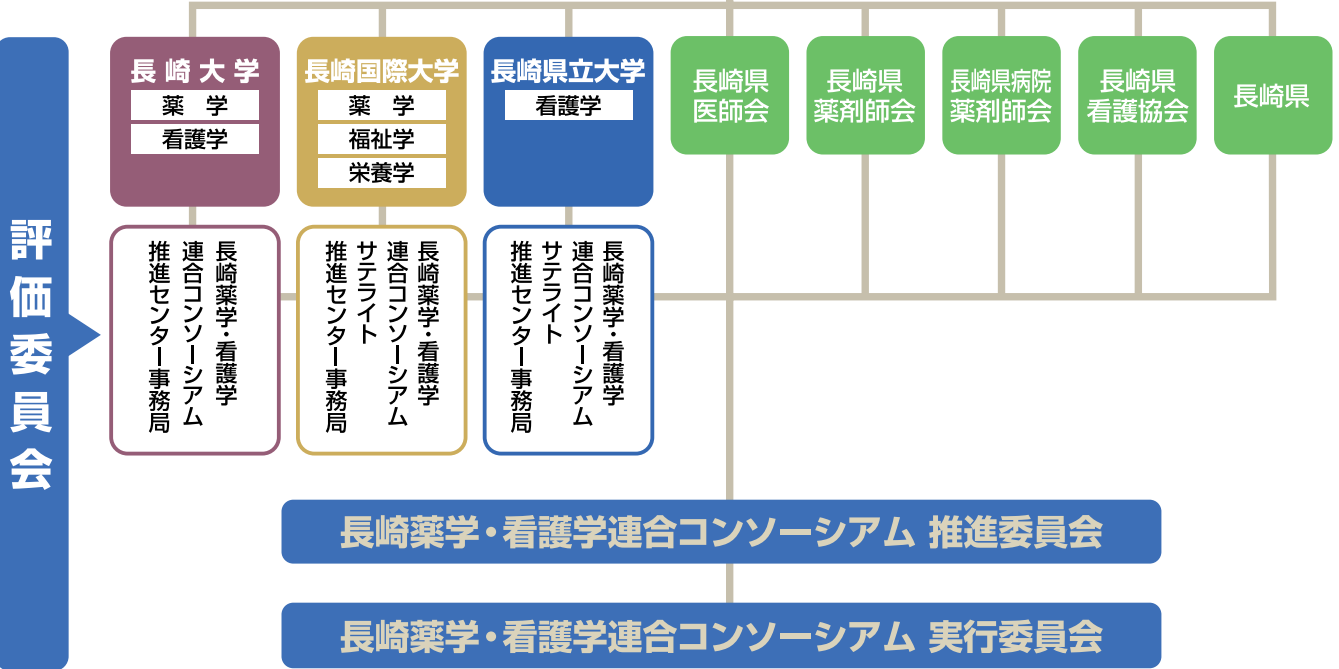
簡易懸濁法の研修会を新設

※簡易懸濁法=粉碎調剤(つぶし調剤)の代わりに服用時に一定の温度のお湯に溶解して経口または経管投与方法



組 織 図

長崎薬学・看護学連合コンソーシアム 本部委員会



薬看連携の必要性



患者が必要としている薬物療法・看護・介護・栄養等のケアを、切れ目のない医療サービスとして享受できるケア環境の整備が急務。

3ヶ年計画表

- 平成21年度**
 - 長崎薬学・看護学連合コンソーシアムの設立ならびに推進センター・推進委員会等の設置
 - 大学教育と卒後生涯学習の系統的プログラムの立案
 - 各種学習関連施設・広報システム等の整備
 - 早期体験学習の合同実施
 - 卒後生涯学習プログラムの試行
- 平成22年度**
 - 早期体験学習の合同実施
 - 専門授業科目の共同実施
 - 卒後生涯学習のマスタープラン策定と統合プログラムの開発・検証
 - 広報システムの確立
- 平成23年度**
 - 早期体験学習ならびに在宅医療・福祉実習の合同実施
 - 専門授業科目の履修科目化
 - 大学教育プログラムの体系化
 - 卒後生涯学習プログラム体系化
 - 広報・最終評価の実施



構成大学および各事務局連絡先

